



日本基督教団 東中国教区

The United Church of Christ in Japan
HigashiChugoku District



台湾キャンプ

実施報告書

2023年12月25日



YMCA 

目次

チャプレンメッセージ 2

ごあいさつ 3

キャンプの概要 3

組織 4

リーダーのことば 5

支援から生まれた協力関係 8

キャンプの内容 11

東アジアの歴史から学ぶべきこと 14

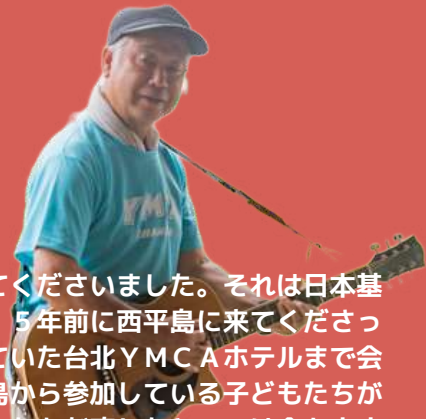
参加者のみなさんからのことば 20

謝辞 29



チャプレンメッセージ

日本基督教団 和気教会 牧師 延藤好英



今回、わたしがチャプレンに選ばれた理由の一つは、5年前の西日本豪雨災害の時、台湾から支援に来てくださった牧師兼大工さんたちと面識があるということでした。

台湾から十人を超える方々が、一か月半にわたり西平島での浸水家屋再建のために労苦してくださいました。それは日本基督教団（担当：加藤誠牧師）のコーディネートによることでした。キャンプの二日目の朝、5年前に西平島に来てくださった牧師兼大工さんたちの内の3人の方々が、車で片道3時間かけて、わたしたちが宿にしていた台北YMCAホテルまで会いに来てくださいました。それもお茶や桃のお土産を持って！今回のキャンプには、西平島から参加している子どもたちが3人いました。5年前の写真と見比べながら、その成長を喜んでくださいました。「わたしたちが直したところは今も大丈夫ですか？」と一人の牧師から尋ねられました。「はい、特に問題なく使わせていただいています」と答えましたら、「そうですか。それはよかったです。でも、保証期間は5年だけです」とジョークが返ってきました。いつの日か、実際に西平島にお招きして、家を見ていただき、西平島の方々とも交流していただけたらと思います。

キャンプ2日目朝の交流会では、わたしが5年前の西平島の様子や大工さんたちの働きをスライドショーと写真で紹介し、真備町の様子や「まびくら」の働きを太田直宏さんが紹介してくれました。参加している子ども9人は真備町の子どもたちで、「あそこがわたしの家」と言いながら見ている子もいました。チャプレンとしてのわたしの役割は、参加者全員の霊的なケアであると思います。具体的には、開会礼拝、毎朝の礼拝メッセージ、閉会のメッセージ、食前の祈り、夜の祈りを担当させていただきました。

開会礼拝は岡山桃太郎空港の中にある一室で行いました。マックス・ルケード作の絵本『たいせつなきみ』の読み聞かせをし、「わたしの目にあなたは値高く尊い」（イザヤ43章4節）の御言葉を紹介しました。二日目の朝は、人生を生き活きとさせる「あ」で始まるひらがな5文字と人生をつまらなくする「あ」で始まるひらがな5文字の話をし、「どんなことにも感謝しなさい。これこそキリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです」（テサロニケ5：18）との御言葉を紹介しました。フォーロンのキャンプ場では台湾のこどもたちと合同での礼拝でした。神さまの愛は国や宗教を包み込む愛であり、敵味方の境界をも超える大きな愛であるということをお話ししました。マタイによる福音書5章44～45節「しかし、わたしは言うておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである」に基づいた話でした。

閉会礼拝は、岡山桃太郎空港の国際線待合所で、お迎えに来られたご家族と共にもちました。そこでは、キャンプで台湾の子どもたちと一緒にいったバーベキューの時の写真を見せながら、その様子を包む夕焼けは、今回の旅のために労苦してくれた多くの人の優しさ、天の神さま、目には見えないけれどいつも共にいてくださるイエスさまの優しさのようだとお話ししました。そしてその夕焼けはいよいよやながらではなく、喜んで夕焼けになっている、みんなを包む夕焼けになれたことを喜んでいと思うとお話しました。

食前の祈り、夜の祈りは、わたしが短く区切って祈り、子どもたちがそれを復唱するという形をとりました。台湾の子どもたちが一緒の時は、日本語が分かる台湾のリーダー（シャロンさん）が、台湾語に翻訳し、それを台湾の子どもたちが復唱するという形になりました。台湾の子どもたちと過ごす時間がありました。言葉は分かりませんでした。彼らが仲良く過ごしているのは伝わってきました。台湾の子どもの何人かが台湾のリーダーに叱られている場面もありましたが、別のリーダーにハグされて慰められたり、友達同士で励まし合ったりしていました。日本から参加の子どもたちについては、自分の気持ちや考えを自分の言葉で語ることができ素晴らしいと思いました。わたしのオリジナル賛美歌を喜んで歌ってくれ、わたしのことを「のぶちゃん」と親しみを込めて呼んでくれ、「荷物、持とうか？」「大丈夫？」と労わってもらいました。台湾の子と言葉を超えてけんかし、そして仲直りする姿も見せてくれました。お祈りの仕方もだいぶ身に着けたようです。

全体を通して、「YMCAせとうち」の4人のリーダーたちが、一所懸命取り組んでおられる姿に頼もしさを感じました。4人それぞれが異なった個性を持ち、それらがハーモニーとなって、キャンプ全体を魅力的なものにしていたと思います。神さまがくださった絶妙の組み合わせだなと思いました。

最後になりましたが、このキャンプを実施し、西日本豪雨災害のために捧げられた献金をこのために用いることを決断してくださった日本基督教団東中国教区に感謝します。また、そのために献金を寄せてくださったすべての方々に感謝します。また、わたしたちを受け入れるために労苦してくださった台湾のYMCAの方々、また実際の企画・運営をくださった「YMCAせとうち」に感謝します。子どもたちを含めたこのような人的な交流こそが世界的な平和を作り出していく礎（いしづえ）になると考えます。これからもこのような具体的な交流が実施されていくことを祈り願っています。これから、わたしも子どもたちと共に成長していきたいと願っています。チャプレンとして参加させていただいたことを感謝し、その時々語るべきことを示してくださった神さまに感謝しつつ。

ごあいさつ 台湾キャンプのめぐみ

日本基督教団 東中国教区 総会議長 服部修（蕃山町教会主任牧師）



2018年7月、西日本豪雨が発生し、岡山県下の真備地区、西平島地区が甚大な被害に見舞われました。その際、復興支援のために台湾長老教会のボランティアの方々が奉仕してくださいました。ここから東中国教区と台湾長老教会の関係が始まりました。「まびくら」での活動の中で、日本基督教団の応援もあって、罹災した子どもたちのリフレッシュのために台湾でのキャンプが計画され、YMCAせとうちの協力を得て、2019年夏に真備、西平島の子どもたちとともに台湾キャンプを開催することができました。キャンプの数か月前には、台湾長老教会の総会に東中国教区も招待され、西平島で活動して下さった牧師たちと再会し、総会の場で教区としての感謝を表明しキャンプの計画を発表する機会も与えられました。そのときのキャンプの活動報告書からも子どもたちが本当に生き生きと過ごせたことを確認することができ、開催して良かった、今回参加できなかった子どもたちを連れてまた開催したい、との思いを強くしていた矢先、コロナウイルス感染症拡大に世界中が巻き込まれ、計画はとん挫してしまいました。

コロナ禍にあっても「まびくら」の活動は、岡山キリスト災害支援室、日本基督教団、YMCAせとうちと協力しながら細々と続けることができましたが、教区としては可能なら台湾キャンプを開催したい、との願いを持ち続けていました。その願いについては、2021年3月に「まびくら」が閉所になった後の2021年度教区総会資料に当時の大塚忍議長の報告の中にも記されています。そしてコロナウイルス感染症拡大に一程度収束の兆しが見えてきた2023年夏、教区として台湾キャンプを開催することを決議し、第1回目と同様、YMCAせとうちの協力によって小学生から高校生までの参加者を得て行うことができました。教区からは延藤先生（和気・三石教会）がチャプレンとして参加。台風の影響が心配された日程となりましたが、大きな影響を受けることなく無事に最後まで守られたことは感謝です。また今回の台湾キャンプでも西平島で奉仕して下さった牧師たちとの再会があり、喜びのひと時となったとの報告を受けています。

豪雨災害という痛ましい出来事がきっかけでしたが、台湾長老教会との関係を得て、子どもたちのためにキャンプを実施できたことは恵まれたことでした。参加した子どもたちの良い思い出となることを願うとともに、台湾でのキャンプのことを思い出したときに、助けあうことによってもたらされる喜びをも思い出してもらえたら、ということをお願いしています。

なお1回目の台湾キャンプの際、日本基督教団の世界宣教幹事として尽力され、2回目の台湾キャンプの助力も約束して下さっていた加藤誠先生が2023年10月に逝去されました。本報告書への執筆を検討しておりましたが、残念ながら叶いませんでした。この報告を最後に付させていただきます。

台湾キャンプ2023の概要

多くの方のご協力に心より感謝申し上げます。

西日本豪雨災害支援活動に駆けつけてくださった台湾長老教会の方々との友好関係をきっかけにこのキャンプは始まりました。コロナで空路が閉ざされていましたが、ようやくこの度状況が改善したことで、現地を訪ね、現況を報告することができました。ありがとうございました。



とき	2023年7月31日（月）～8月4日（金）
ところ	岡山空港～台湾桃園空港～台北YMCA～YMCA福隆キャンプ場
参加者内訳	岡山県倉敷市真備町 小学生・中学生・高校生 岡山県総社市 高校生 岡山県岡山市平島 小学生・中学生 台湾 彰化YMCA 小学生・中学生
スタッフ内訳	引率団長 YMCAせとうち 代表理事 チャプレン 日本基督教団 主任牧師 引率責任 YMCAせとうち・彰化YMCA 職員 ボランティア 岡山ワイズメンズクラブ 会員 YMCAせとうち・彰化YMCA ユースリーダー 香港YMCA インターン
共催団体名	岡山キリスト災害支援室 日本キリスト教団東中国教区 YMCAせとうち 彰化YMCA
協力団体名	台湾長老教会 岡山ワイズメンズクラブ 台北YMCA 香港YMCA 岡山市・新竹市

組織

台湾と日本のキリスト教会とYMCAが協力し、すべての活動を行いました。



延藤好英
チャプレン

和気教会、三石教会牧師。シンガーソング牧師として、キャンプ全体をムードメイク。子どもたちから「のぶちゃん」と呼ばれ、絶大な信頼を得ている。毎日行った聖書のお話が、多くの子どもたちの心を捉えた。



有安 紀
日本側引率

YMCA青少年活動担当主事。発災直後のリフレッシュキャンプを皮切りに、真備でのこども支援活動を継続して担当する。第1回に続いて、2回目の台湾キャンプを続けて引率。クリスマスに受洗予定。



Y.Sharon & Hana
台湾側引率

台湾彰化YMCAにて社会福祉活動を担当し、子どもたちの成長を支える話づくりに日夜励んでいる。発災後は、真備町に泥かきに駆けつけてくださり、日本への思い入れも深い。献身的な働きで、子どもたちの絶大な信頼を得る。



組織図



子どもたちにも自分自身にもかけがえのない経験になった学びの多い5日間でした。日本と台湾の子どもたちは、出会ってすぐはお互い緊張した様子でしたが、時間が経つにつれてその様子は変化しました。彼らは同じ言語を使わずともそれぞれが母国語を使いながら、コミュニケーションを取っていました。伝わらない時には様々な方法でなんとかして伝え、それを繰り返す中で仲を深めて共に笑顔で楽しく過ごし、別れの時には寂しさを感じる様子は非常に印象的でした。子どもたちはキャンプ中、台湾の人たちと自らの力でつながったというような上手くいった経験に加えて、上手くいかない経験も多くしたと思います。その全ての経験を大切に、今後の人生でも様々な経験を積み重ねて欲しいと思います。

また、キャンプ中に台湾のYMCAのリーダーたちが英語で話したことを日本語に通訳してみんなに伝える役割を私は担いました。最初は難しさを感じましたが、最終的には恐れず自信を持って翻訳できるようになりました。この出来事と上のような子どもたちの様子から私は、何事にも失敗しても良いという気持ちで恐れずチャレンジすることの大切さを改めて学びました。加えて、私はキャンプ中に国籍に関わらず人とつながる経験をしたことで、その良さも改めて感じました。

私は台湾キャンプにおける全ての経験を今後活かしていきます。最後にこのキャンプに関わってくださった全ての人に感謝します。本当にありがとうございました。

4泊5日の台湾キャンプは私にとって、今までの考え方を大きく変えてくれたキャンプでした。キャンプを通して、私自身が変わったと実感したことは、外国に対する捉え方です。私は今まで外国に対して抵抗感がありました。その大きな理由は、言葉の違いによるものです。伝えることに対する恐怖心やなかなか伝わらないもどかしさを感じており、自分から外国に行きたいという思いがなかなか湧いてくることはありませんでした。しかし、キャンプを通して、台湾の子どもたちやリーダー、スタッフ等たくさんの人たちとコミュニケーションを取っていく中で、伝えたいという気持ちがあれば周りが助けてくれるということ、伝わって分かち合えた時の喜び、そして人の優しさを感じることができました。上手に伝えることはできないけれど、コミュニケーションを取ることに少し自信を持つことができました。

そして、たくさんの交流を通して素敵な仲間を作ることができました。私にとって、また再会したいと思える仲間です。仲間や友達がいるから、台湾という国が自分にとって特別になり、争うことはしたくない、平和でいてほしいという思いが芽生えてきました。世界を大きく変えることは難しいかもしれませんが、身近にいる人が笑顔でいられるように考え、行動していくことが平和に繋がっていくのではないかと思います。

とても貴重な経験をさせてくださった日本基督教団の方には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。ここで出会えた日本と台湾の仲間たちにまた会うことができることを願っています。

今回の台湾キャンプでは、多くの学びや気づきがあった。このキャンプに参加させていただくことが決まって、今まで今回のような4泊5日という期間の長いキャンプで、さらに台湾という日本ではない外国で現地の方々と関わることができるということへの期待感をもつと同時に、現地の子どもやスタッフと円滑にコミュニケーションをとることができるかどうかという不安を感じていた。しかし、現地について子どもたちと関わるうちに英語でコミュニケーションをとれることが重要なことではない、ということに気付いた。現地の子どもと日本から一緒に来た子どもを見ていると、お互い自分の母国語で会話をしているにも関わらず、思いが通じていた。その様子を見ると、大切なことは上手な英語でコミュニケーションをとることではなく、自分の思いを相手に伝えたい、言語が違ってもしっかり関わりたいという情熱をもつことだということに気付かされた。話す言語が違って、関係を深めることができるということを知り、子ども同士の間から学ぶことができた。これは、国同士の関係でも同じことが言えるのではないかと感じた。お互いの国同士がそれぞれ相手に興味をもち、関わろうとする気持ちをもつことで、良い関係を築いていくことができる。相手を知ろうとすることが、良好な関係を築いていくために必要なことであると今回の台湾キャンプで文化の違いに触れたり、子ども同士の関わりを見たりする中で気づくことができた。子どもとともに、台湾と日本の文化の違い、言語の壁にぶつかり、悩みながらもたくさんの気づきを得て、たくさんの仲間に出会えた。この経験は2度と忘れることのない貴重なものとなった。



メッシ



ハート



マツチ

引率リーダーのことは



長寿 和子

2018年7月、倉敷市真備地区や平島地区に大きな被害をもたらした西日本豪雨災害から5年、たくましく成長した子どもたちと過ごした4泊5日の台湾キャンプは、とても有意義で楽しく、思い出深いものとなりました。

特に、台湾到着初日に宿泊場所であるYMCAホテルに、平島地区に支援に来てくださっていた台湾の大工さんがお見えになり、当時を語りながら、子どもたちと交流されたことは心温まるひとときでした。子どもたちも家に帰ってからの素敵なお土産話しになったことと思います。

今回のキャンプは、出発前から台風の予報を気にしながらのスケジュールでしたが、台北YMCAの方々にお世話になりながら、海で遊ぶこともサイクリングを楽しむこともできました。様々な活動を通して食文化の違いを知ったり、車は右側を走るなどの交通規則の違いを体験したりしながら、日本の子どもたちと台湾の子どもたちが自然にふれあい仲良くなっていく姿に子どもの力を感じました。

そして、何より感心したことが2つあります。1つ目は、年齢の大きな子どもたちが、年下の子どもたちを気遣い、とても上手に活動の中に引き込んでいく姿でした。それは、ゲームをするときにも食事作りのときにも思ったことです。

2つめは、リーダーの姿です。以前から思っていました、リーダーと子どもたちの間隔が遠すぎず、近すぎず、とても良い加減を持ちながら、子どもたちからは信頼と親しみを得ていると、今回のキャンプを通してあらためて感じました。キャンプに参加させていただいたことで、台湾の魅力や人々の優しさにふれることができました。素晴らしい時間を共有させていただきありがとうございました。



佐藤 郁也

私は、YMCAせとうちの理事、ワイズメンズクラブのメンバーとして参加させて頂きましたが、今回の台湾キャンプに同行する中で、色々な気づきがありました。まずは、このキャンプ実現の起点に、2018年7月、倉敷市真備地区や平島地区に大きな被害をもたらした西日本豪雨災害があったこと、そこに台湾のキリスト教会の関係者や様々な方々の尽力があったことを想います。そして、日本基督教団東中国教区に寄せられた多くのご寄付からの資金援助があったからこそ、この台湾キャンプを実現できました。この場を借りて、お礼を申し上げます。ご存知のように、小学生の高学年～中学、高校の間に海外に行くことは、とても意味のある事です。しかしながら、それは誰でも行けるということではなく、金銭面の負担がとても大きな課題です。そんな中で今回のプロジェクトが実現できたのは、国を超えて働いたキリスト教精神の慈愛そのものだと感じざるを得ません。改めてそこに、感謝して活動を振り返りたいと思います。

今回キャンプに同行して企画を行ったのが、YMCAという事もあり、世界各国にパートナー関係があり、受け入れ側、彰化YMCA（台湾）の協力体制も素晴らしかったと感じます。初日、空港での待ち合わせから移動、ホテルへのチェックイン、その他、様々なアクティビティを考えて頂き、日本と台湾の子供達にとって素晴らしい交流に繋がりました。急な天候変化で予定が変更して、大変な印象も見受けられましたが、スムーズな対応によりストレスなく、子供たちが滞在できたこと、本当に彰化YMCAスタッフに感謝致します。子供達の写真からも見て気付くと思いますが、本当に笑顔に溢れています。国や言葉、文化が違うからこそ、多感な子供達は、この旅行を楽しむ為に一人一人頑張りました。考えてみれば、大人でも異国の地で、言語の違う方と数日間とは言え、一緒に生活を共にするのは難しいと感じる方も多いのではないのでしょうか？海外にいるからこそ、島国の日本では得られない刺激が子供達に沢山あります。今回の振り返りとして一番大切なのは、これで活動を終わらない事です。これから、子供達の将来にとっての投資、スタート地点と思って、私たち大人が出来ることをより深く考えるべきだと思いました。

このプロジェクトが起点となり、今後世界中の子供達と文化交流が生まれるような仕組み作り尽力できたらと私は考えております。

台湾リーダーのことば

Hi, I'm Sharon, staff from Changhua YMCA.

It is a great blessing that we can communicate and share with all of brothers and sisters from different countries under the YMCA family. I am honored that Mr. Ota has continued to invite us to resume the exchange program and share the unforgettable 5-day with our good friends from YMCA Setouchi at summer time.

The friendship established before the pandemic has returned after the world's recovery. I am honored to be a part of it and witness the purest interact between Taiwanese and Japanese children. Because of the language problem, most of their interactions are through gestures or asking the instructors to translate. However, a sincere smile can resolve their awkwardness, and sharing makes everyone be good friends. Unlike before, we took the children from Changhua and Setouchi to Taipei for activities. Unexpectedly, we also played a game of cat and mouse with the typhoon. Thanks to the Lord's protection, the activities went smoothly and safely. Under the strong support of the Taipei YMCA staff, we ensured that the children had a safe and happy time in the constantly changing schedule. It was all worth it!

The morning and evening prayer every day are the times that represent the YMCA spirit. Listening to the pastor's warm voice, sometimes singing, sometimes sharing, and simply thanking God for all that he has given, is a very healing moment for me. The children also recognized God's love in this time, which is a more beautiful thing than just exchanging and meeting new friends. The simple sharing session on the last day was actually prepared in a hurry. However, we did not expect that the children had already build deep relationship in just a few days. It's very touching to see them hug and say goodbye. Me and Hana were also lucky to hear the last sharing of the Setonaikai children. Everyone has good memories of the activities in the past few days and has a better understanding of Taiwan. I really appreciate everyone from YMCA Setouchi for giving us such rich memories. I hope this friendship can continue!



Y.Sharon

Hi, I'm Hana, staff of Changhua YMCA.

After the COVID-19 pandemic in 2019, I'm really glad to have this exchange program with the children of Setouchi YMCA. I've always thought that international exchange is the best thing of YMCA for we barely find such institutions in Taiwan. I can make friends from other countries in the workplace and make this friendship go on.

The most exciting part is the interact between Taiwanese and Japanese children in three days. Even though the typhoon disrupted the plan, it couldn't extinguish the children's enthusiasm. They play in the sea together, enjoy the beautiful scenery of Taiwan by train together, experience barbecues with different styles, and play group games to get to know each other etc.

For Taiwanese children, it was mostly their first time to meet friends from Japan. They were inevitably shy and difficult to express themselves in words, but their actions couldn't hide their inner enthusiasm. I heard them say in private, "That guy is so handsome!", or "That Japanese guy also likes that anime... and that character!", and I saw them say with admiration and appreciation in their hearts, "I must get that guy to sign my autograph."

The exchange process sometimes will face some cultural differences. Before the camp start, Sharon and I were discussing whether we would have to deal with child conflict during these days. First we thought, if we couldn't communicate in language will, it would not have any conflict. Unexpected, we still face such challenges. In the process of dealing with the conflict, listening to their expressions, I realized that this is not only for children to learn how to get along with each other, but also to expand their worldview. I think this is the best experience and value that cultural exchange brings to us, and only YMCA can do it.

I am really appreciate that Setouchi YMCA bringing us such a rich opportunity and experience. I look forward more exchanges between our children in the future!



Hana

西日本豪雨災害支援から生まれた協力関係

岡山キリスト災害支援室 室長 草井琢弘(岡山めぐみキリスト教会 牧師)



①西日本豪雨災害時の様子と支援活動の沿革

災害が少ないと思われた岡山県に豪雨災害が発生し、被害状況が全世界へと発信されました。「岡山県宣教の集い」（教会協力団体）は「岡山キリスト災害支援室」（通称「岡キ災」）を立ち上げました。国内外から多くのボランティアと支援金が与えられ、緊急支援活動（泥かきなど）がスタートしました。当時は猛暑が続き20分作業10分休憩を繰り返しました。あるときは天井から泥水をかぶりながらの作業となり、ずぶ濡れになりながら黙々と作業するボランティアに被災者の方も感動されました。

②国を超えた支援者の実相

その後、被災地を拠点とした中長期支援活動（居場所作り、子ども、仮設）を「日本基督教団」「日本基督教団東中国教区」「YMCAせとうち」と共同で2021年3月末まで行いました。特に国外からはいろんなスキルを持った支援団体が支援くださいました。台湾からのボランティアは大工スキルを持ち、子ども支援にも関わってくれました。



③そこから生まれた台湾との関係性

その関係から、共同受援者の協力により被災地の子どもたちを台湾キャンプ（2019年7月）に送る働きが実現しました。このキャンプは一回限りに終わることなく、今年の夏にも実現しました。報告書から参加した子どもたちの生き生きとした笑顔に励まされます。

④受援者の思い

受援者として支援団体を立ち上げたものの、当初はどう関われば良いか不安しかありませんでした。しかし、それは一瞬のわずらいであり、Facebookでボランティア受け入れを掲載した翌日から問い合わせの電話が鳴り止まず、数日電話対応に追われました。

⑤被災地の現状とこれから

西日本豪雨災害から5年経ちました。町並みは一見元通りに戻ったように見えますが、被災者にお目にかかると、まだまだ孤独感が否めず支援の必要を感じました。支援活動を休止したときに活動記録集を作成しましたが、その矢先に新たな活動拠点「まびくらハウス」が与えられ、昨年11月23日（土）に開所し支援活動を再開しました。小規模ですが、居場所支援を通して必要な方に寄り添うことができると定期的に活動（「コーヒーサービス&おしゃべり手芸」や「映画鑑賞会と歌声喫茶」）を続けています。



2018年7月豪雨被害概要

- 決壊 10河川18ヶ所・死者 41人
- 避難者 25,000人 (最も多かった時)
- 住宅全壊 4,830件・住宅半壊 3,365件
- 床上浸水 1,541件・床下浸水 5,517件

岡山県では河川の氾濫や堤防の決壊による浸水、土砂災害が相次ぎました。全半壊・浸水家屋の数は19日時点で少なくとも14,000棟にのぼり、県内の風水害による被害としては戦後最悪となりました。

倉敷市真備町では7月7日朝までに小田川と支流の高馬川などの堤防が決壊し、広範囲が冠水。真備町だけで51人が死亡し、ほとんどが水死とみられ、死者のうち43人は屋内で発見されました。浸水は南北1km・東西3.5kmの範囲で深さは5メートルを超え、最大で5.4メートルに達しました。浸水範囲は真備町の4分の1にあたる1,200ヘクタールに及んでいます。

小田川では、合流先の高梁川の増水に伴い水がせき止められるバックウォーター現象が発生し、越水により堤防の内側が割られ決壊しました。真備町における堤防の決壊箇所は小田川で2箇所、支流の高馬川で2箇所、末政川で3箇所、真谷川で1箇所が確認され、小田川では他にも6箇所で法面の崩落が確認されています。



災害支援活動のリーダー 岡山キリスト教災害支援室 草井琢弘牧師



岡本興 倉庫の改修から支援活動につながる説明を受けるスタッフ達





TAIWAN CAMP



キャンプの内容

こんな風に過ごしました。

【7月31日(月) / 1日目】

コロナインパクト以降、休止していた岡山-台湾便の飛行機も復帰し、4年ぶりに台湾キャンプを実施しました。今回の参加者はメンバー12名・スタッフ8名の合計20名です。4年前に参加したメンバーだけでなく、まびくらでの活動に参加していたメンバーも多く、久々の再会を喜ぶ姿が見られました。いよいよ、台湾キャンプがスタートです。簡単な自己紹介をしたり、ゲームをしたりして、アイスブレイキング。また、和気教会の延藤牧師(以下、のぶちゃん)に出発前の礼拝と共に賛美歌を教えてもらいました。

台風の影響からか、予定より少し遅れながらも飛行機が岡山桃太郎空港を出発。はじめて飛行機に乗るメンバーもあり、ドキドキしながらも、飛行機の中での時間を楽しめたようです。約3時間のフライトを経て台北桃園空港に到着。彰化YMCAのスタッフたちが待っていてくれました。

MRTという電車に乗り込み、台北駅まで移動。そこから、歩いて宿泊先の台北YMCAホテルに到着しました。「お腹が空いた～」と話すこどもたち。チェックインを済ませ、研修室に集まり、台湾最初のお食事です。4年ぶりに台湾での食事を食べるこどもたちは「あ～～、こんな味だったな～」と話すメンバーもいる側、台湾料理の独特なクセに「うっ・・・」と箸が止まるメンバーも。夕食後は、朝ののぶちゃんに教えてもらった賛美歌を歌いました。この日は少し疲れていたのか、各お部屋でもぐっすり眠っていたようです。



【8月1日(火) / 2日目】

起床後、ロビーに集合し、朝食を買いに行きました。朝市に行くメンバーもいれば、コンビニに行くメンバーもいます。各々、自分の食べられる物を探したことで、前日の夕食にあまり食べることができなかったメンバーもお腹を満たすことができました。

この日の午前中は、長老教会の大工さんたちに会いました。2018年に岡山市平島地区が豪雨で被災した際に災害支援として来てくれた牧師兼大工さんたちです。太田総主事(以下、Qさん)とのぶちゃんから、真備地区・平島地区で被災した際の状況などがレポートされた上で、改めてお礼を言うことができました。

台北YMCAホテルを後にし、歩いてバスへと移動する途中で雨が降り始めました。なんとかバスに乗り込み、彰化から来た台湾のメンバー・リーダーたちと合流。これで台湾キャンプの全メンバーが集合です。みんなでバスに揺られながら、福隆キャンプ場に行きました。このキャンプ場で3日間を過ごします。「どんなことをするのだろうか？」という楽しみな気持ちと、「初めて会う台湾メンバーたちと仲良くなれるかな」といった不安な気持ちが半々の様子でした。

福隆キャンプ場に到着し、その裏側に広がる綺麗な海に「うわ～、入りて～」と心の声が漏れる中高生たち。降っていた雨も止んだので、昼食のお弁当を食べた後、水着に着替えました。砂浜に広がるディズニーの砂の彫刻アートを見た後、待ちに待った海水浴です。台風の影響からか、たまに小さな波が起きるものの、ビート板でその波に乗りながら遊ぶ様子が見られました。また、海に入ってから、台湾メンバーとの距離も一気に縮まり、水をかけ合ったり、海底に沈んでいる石を集めたり、言葉はうまく通じないものの、名前を呼び合い仲良くなれたようです。

夕食を終えた後は、台湾リーダーの教えてくれるゲームを楽しみました。そして、みんな楽しみにしていたのぶちゃんの賛美歌とストレッチ&ふりかえりタイム。午前中の不安気な面持ちが嘘のように、前向きな声を聞くことができました。

【8月2日(水) / 3日目】

お天気を心配していましたが、この日も青空が広がっていました。午前中はサイクリングにでかけました。夏でも涼しい2167mもの長さがある旧草嶺トンネルを抜けると、亀山島と宜蘭県の青い海が広がっています。写真を撮ったり仙草のゼリージュースを飲んだり、往復約6キロの自転車旅を満喫することができました。

汗をかきながらサイクリングを終え、福隆駅から電車で宜蘭県まで移動。バスを乗り継いで、次の目的地「国立伝統芸術センター」に到着しました。昼食を食べ、グループごとに見学開始です。芸術センターは、台湾の劇団や音楽などの伝統を学ぶことができる非常に広いテーマパークです。劇やパフォーマーの方のパフォーマンスを見るだけでなく、お土産売り場やお菓子屋さんを回ってみたり、タピオカを飲んだり、楽しい時間を過ごしました。

国立伝統芸術センターを後にし、バスで福隆キャンプ場まで移動。バスの窓から景色を見てみると、雨が降り始め、海に白波が立ち始めました。「うわ～、波がすげー!!」と興奮気味に話すお友だちもいれば、バスの振動が心地よいのか眠り始めるお友だちもいました。キャンプ場に到着し、少し休んだ後、夕食作りがスタート。この日の夕食はBBQです。火起こしから始め、辺り一面に美味しそうな匂いが。「腹減った～」と話すお友だちが続出。お肉が焼けたところで「いったっきまーす!」と大きな声が響き、その後「うめ～!!」と続く声。なかなか火が起こらず苦労したグループも、美味しいお肉にご満悦。お腹いっぱいまで台湾のお肉を満喫しました。

その後、YMCAせとうちのリーダーたちがゲームをしてくれ、日本・台湾の国籍や言語を越えて、みんなで笑い合うことができました。また、佐藤郁也さんの友人でアマチュアミュージシャンのお二人が登場。日本と台湾の曲をそれぞれ一曲ずつ歌ってくれました。続けて、のぶちゃんのオリジナル賛美歌をみんなで歌い、雨の降りしきる夜でしたが、天気は左右されることなく楽しい時間を過ごすことができました。

	7月31日/1日目	8月1日/2日目	8月2日/3日目	8月3日/4日目	8月4日/5日目
朝		朝食ショッピング 台湾の大工さんと交流 彰化メンバーと合流	サイクリング 宜蘭へ移動	福隆キャンプ場とお別れ 台北YMCAホテルへ移動 台北駅地下街探検	朝食ショッピング 台北桃園空港へ移動 おみやげタイム
昼	岡山桃太郎空港 集合 アイスブレイク フライト	福隆キャンプ場へ移動 砂の彫刻アート見学 海水浴	国立伝統芸術センター見学 福隆キャンプ場へ移動	台湾メンバーとお別れ	フライト 岡山桃太郎空港 到着 解散
夕	台湾桃園空港 到着 台北YMCAホテルへ移動 チェックイン 夕食 フィードバック	夕食作り 台湾リーダーのゲーム	BBQ 日本リーダーのゲーム ミニコンサート フィードバック	夜市で夕食 おみやげタイム 讚美歌コンサート フィードバック	

【8月3日(木) / 4日目】

この日は朝から雨模様。台北市は台風休日に。当初行く予定にしていた「九份ツアー」も急遽中止となりました。3日間お世話になった福隆キャンプ場を後にし、台北YMCAホテルに戻りました。雨は少し弱まっていたので、それぞれのおこづかいを持って台北駅の地下街へ。台風休日のため、多くの店が閉店していたものの、台湾のゲームセンターに行ってみたり、タピオカミルクティーを買ったりと、いろいろなお店を回りました。

昼食を食べ終え、いよいよ台湾メンバーとお別れの時間がやってきました。みんなで写真を撮ったり、サインを書き合ったりして、最後の時間を過ごします。スタッフのシャロンが作ってくれたスライドショーを見て、これまでの思い出を振り返りました。言葉はうまく伝わらずとも、名前を呼び合い、「バイバイ!」と笑顔でお別れするこどもたち。日本メンバーだけが残った部屋は少し寂しげな雰囲気をもっていました。

夕方、雨は降っているものの、みんなが楽しみにしていた寧夏夜市に出発。ここには、台湾フードだけでなく、お土産屋さんもいっぱいあります。グループごとに分かれ、どこに行こうかと相談しながら、夜市の中を歩きました。「かき氷食べたいね～」「臭豆腐の匂いはすごいけど、食べてみたい気もする」など、楽しげに話しています。自分の食べるものだけでなく、各々の食べ物をシェアし合いながら、楽しい夜の時間を過ごしました。

台北YMCAホテルに帰ると、みんな少し疲れ気味。しかし、最後の夜を楽しみたい気持ちもチラつきます。キャンプ中にいっぱい歌った「のぶちゃんのオリジナル賛美歌をみんなで歌おう」という女の子たちの意見に満場一致。「あの歌が良い!」「私はあの歌が好き!」などと、のぶちゃんソングに花が咲きます。歌いながら「あ～、明日には帰るんか～」「あつという間やったな～」とつぶやくお友だちも。少しずつ、キャンプも終わりが近づいてきました。



【8月4日（金） / 5日目】

2日目と同様に、朝食を買いに出かけました。2日目と違い、「台湾のご飯も最後だし〜」と朝市に行き、現地の食べ物を買うお友だちも多くいました。朝食を食べ、MRTに乗って、台北桃園空港へ。5日間、お世話になった彰化YMCAのスタッフたちともお別れです。「また、来るね〜」と約束を交わし、搭乗手続きへ。ボーディングパスを貰うまで、お見送りをしてくれました。

空港内へ入り、お土産売り場へ直行。「お母さんとお父さんには買ったから、部活のメンバーに」などと、残っているお金を計算しながら、あれでもないこれでもないとお土産を探します。両手にいっぱいのお土産袋を下げて、飛行機に搭乗していきました。

初日と違い、帰りの飛行機はみんなにこやかに過ごしています。「あ〜、楽しかったな〜」「明日から部活だ〜」「まだ帰りたくないな〜」などと口々に話しながらも、心なしか久々の日本も嬉しそうなお様子。岡山桃太郎空港には、保護者の方々や兄弟姉妹のお迎えが、「ただいま〜」とこどもたちの声が響いていました。



東アジアの歴史から 学ぶべきこと



「台湾に来てくれてありがとう。こんなにも大きくなった君たちに再会できて、本当に嬉しいよ。」台湾長老キリスト教会の方々、被災地の子どもたちと再会し、台北YMCAホテルで語られた言葉です。7月31日～8月4日、西日本豪雨災害被災家庭の子どもたち12名を台湾でのキャンプにご招待し、台湾の子どもたち8名と共に過ごしました。言葉や文化の違いは大きかったので、みな最初はおっかなびっくりの関わりでしたが、最後は仲良く喧嘩する！ことができるぐらいに関係性が深まり、別れ際には、再び世界のどこかでの再会を誓い合うほど別れがたい雰囲気が出来上がりました。

「私たちの同胞が苦しんでいる、だから助けに行きましょう。」日本で災害が起こるたびに、台湾の教会では、多くの方がそう仰るそうです。1995年阪神淡路大震災の時も、2011年東日本大震災の時も、2018年西日本豪雨の時も、台湾から沢山の支援金を送られ、多くのボランティアの方々が助けに来てくれました。しかもその一行は、さまざまな人種の方で構成されており、改めて台湾には多くの民族の方々が暮らしていることに気づくきっかけとなりました。それにしても、どうしてそんなに良くして下さるのでしょうか。それにはわけがあるはず。今回のキャンプはその理由を探索する旅でもありました。

ご存知かもしれませんが、1895年から1945年まで50年間、日本は台湾を植民地として支配していました。そこで日本人は台湾の人たちにどういう態度で接していたのでしょうか。1930年に起きた「霧社(むしゃ)事件」とは何だったのでしょうか?改めてキャンプ出発前にいろいろ調べてみて、自らの無知に愕然としました。「知らなかった」、ではなく「知らずに済ませてきたこと」のなんと多くあったことでしょうか。

わたしたちの行動原理である、日本YMCA基本原則には「イエス・キリストの愛と奉仕の業に倣う」という前提条件の元、3つの指針が示されています。そのひとつとして「アジア・太平洋地域の人々への歴史的責任を認めつつ、世界の人々とともに平和の実現を目指します」という宣言があります。新約聖書マタイによる福音書に「平和を実現する人は幸いです」と書かれているように「平和の希求と構築」は、キリスト教会やYMCAの使命でもあります。では、わたしたちが創り出すべき平和はどのようなものなのか。それを知るためにも、まずは歴史を振り返り、アジア・太平洋地域の人々への歴史的責任を認識する必要があります。台湾は、近くにあるのに、私は自分自身で遠くに位置づけていたのです。そこで誠に雑駁ではありますが、以下に台湾の歴史について調べたものを記します。

台湾	中国	日本
タイヤール族、アミ族などマレー系 ポリネシア系先住民族が生活 中国大陸より移民が増加 ↓ ↓ 中国の一部 ↓ 日進戦争の結果、台湾は日本領土に ↓ ↓ 日本統治下 ↓ 中華民国政府、台湾に遷都	隋唐 明 清 中華民国 中華人民 共和国	飛鳥時代 江戸時代 明治時代 大正時代 昭和時代 日本敗戦



台湾をめぐる大きな歴史の物語

台湾先住民とは（多民族地域である理由）

台湾原住民とは、17世紀初頭に漢民族が中国大陸から台湾に移住し始める以前の大昔から、すでに台湾に住んでいた先住民の子孫のことです。しかしながら、現在の台湾社会では約2,234万人のうち原住民が約1,9%、それ以外の大多数は漢民族という構成になっています。台湾原住民は約10族に分けられ、彼らはそれぞれ異なった言語、風習、特色を持ち、それぞれが部落を形成し生活していましたが、文字を持っていませんでした。それゆえに、それ以前の詳しい歴史は残っていません。ちなみに17世紀初頭とは江戸時代初期の頃です。

台湾の歴史の流れ 19世紀まで（常に他者からの支配の元にあった）

1624年、初めて外部の人々がやってきます。それはヨーロッパの勢力でした。ポルトガルが台湾を「発見」した後、オランダ（一部の地域はスペイン）が支配します。この時、中国大陸（時代は明が衰退し、清が建国される過渡期）はあまり台湾に関心を示していませんでした。中央から遠く離れた僻地にすぎなかったのです。1661年、鄭成功（ていせいこう）が中国大陸からやってきてオランダ勢力を追放し、台湾を支配します。当時、大陸では明が滅び清が支配を広げていました。滅びた明を復興させたかった鄭成功は反清活動の拠点として台湾を選んだのでした。しかし、わずか22年後の1683年には清が鄭氏を降伏させ、台湾は清の支配下に入ります。それから約200年間は清の支配下にありました。

清の次に台湾を支配（侵略）したのは日本（日清戦争の勝利のすえに植民地として分捕った）

1895年、日清戦争に勝利した日本が台湾の統治権を得たのです。以降約50年間、台湾は日本の支配下にあります。当初、日本の統治に対する台湾住民の抵抗は強く、紛争で処刑されたり戦死したりした住民も多くおり、霧社(むしゃ)事件とはそのとき起こった抵抗運動でした。（セデック・バレという映画になっています）一方で、日本はこの侵略を成功させるため、道路、鉄道、上下水道、電気などのインフラの整備に力を入れました。また教育の普及にも力を入れ、台湾の人々の識字率は大きく向上しました。もちろん、教育は支配者の言語である日本語で行われましたので、この時代に教育を受けた台湾の高齢の方は日本語を話せるのはそういう理由です。それまでの歴史を見てもわかるように、ここではじめて台湾の歴史上、言語が統一されたのです。結果、台湾の近代化を促したという人もいますが、果たしてそうやってしまっているのでしょうか？日本の支配が多く犠牲者を出したことは拭いようのない事実なのです。

第二次世界大戦の終結と中華民国の支配（犬が去って、豚が来た）

1945年、日本が第二次世界大戦に敗北し、台湾の統治を放棄します。結果、1912年に中国大陸に成立した中華民国の支配下に入ります。当時の中華民国は、蒋介石（しょうかいせき）が率いる国民党が代表政権でした。中国大陸から国民党の役人や兵士たちが台湾にやってきますが、その時台湾の人々は非常に驚いたといいます。というのは、中国大陸より台湾の方が近代化が進んでいたのだそうです。国民党の役人も兵士もほとんど読み書きができず、水道の蛇口から水が出たり、電球が光ったりするのを見て驚くくらいでした。また、国民党の役人は、腐敗しきっていて、略奪や乱暴な行為が横行しました。当時の様子を台湾の人々は「犬が去って、豚が来た」と揶揄しました。犬は日本、豚は国民党のことです。犬は指示や命令が口うるさかったけど、豚はただ食べて寝ているだけ、という皮肉です。共通しているのは、どちらもが侵略者であったということです。そんな国民党への不満がどんどん募り、1947年2月28日に大規模抗議デモ（二・二八事件）が起こります。それに対し、国民党政府は武力で鎮圧しました。二・二八事件は、台北を起点に発生した民衆の抗議やデモなどの事件で、大陸から国民政府が援軍を送り、民衆の行動は弾圧され、戒厳令が布告されました。大陸からやってきた国民党の軍隊は無差別虐殺を行い、2週間で約28,000人以上が殺害されました。このとき、台湾の未来を担う優秀な人々が皆殺されてしまったので、台湾はその後長らく国民党の支配下に置かれました。日本のあとに来た国民党の統治があまりにひどかったため、「日本の統治の時の方がましだった」と考えた人も多数いたのです。今なお、台湾の人に親日家が比較的多いのはこのことが1つの理由と考えられます。しかし、繰り返しになりますが、他者を武力で侵略した事実は変わりませんし、教会やYMCAもその片棒を担いでいたのです。

中国大陸での内戦（昨日の友も今日は敵、果てしなき侵略の連鎖）

第二次世界大戦中、中国本土の国民党と共産党は、第二次国共合作を行い、日本軍と戦っていました。つまり、国民党と共産党はもともと中国の支配を巡って対立していましたが、第二次世界大戦中は日本という共通の敵と戦うために協力していたのです。ところが、1945年に日本が降伏した翌年、国民党軍と共産党軍はすぐに内戦に突入します。日本という共通の敵がいなくなり、再び中国の支配を巡る戦いとなったのです。内戦は共産党が有利でした。腐敗しきっていた国民党軍は民衆の支持をどんどん失っていきます。また、共産主義圏を広げたいソ連が、共産党軍に武器を援助したため、共産党軍は勢力を強めていきました。ついに1949年、中華民国（国民党が代表政権）の首都南京が陥落し、共産党のリーダー毛沢東（もうたくとう）は北京を首都とし、中華人民共和国の成立を宣言しました。これが今の中国です。内戦に敗れた国民党は大陸にいらなくなり、台湾に逃れ、台北を臨時首都として、台湾で中華民国政府を維持したのです。このとき、国民党のリーダー蒋介石は台湾で体制を立て直して、もう一度共産党に反抗しようと計画していましたが、結局それは実現しませんでした。

国連からの追放（国連よさらばは、日本だけではなかった）

1950年代にも「台湾解放」を目指す共産党中国が国民党軍がいる島々を攻撃するなど、中国と台湾の戦いが続きます。台湾はアメリカの支持を得ながら、なんとか中国からの攻撃を阻みます。（アメリカは冷戦でソ連と対立しており、共産主義圏の拡大を食い止めたかったので、台湾を支持し続けました）これ以降、「中華民国が支配する地域が、現在の台湾」という実態が確立します。中華民国のリーダー蒋介石は、台湾の中でも共産党の勢力が拡大することを恐れていたために、戒厳令を出し、共産主義者や知識人を摘発し、言論の自由は抑圧され、軍事独裁の状態になりました。しかし一方で、経済は大きく成長しました。それは、政治に関与しなければ、経済活動は自由に行えるという政策を敷いていたからです。そのように経済成長をとげた中華民国でしたが、ここで大きな試練がやってきます。それが「国連からの追放」でした。もともと第二次世界大戦後に国際連合が発足したときは、中国本土を代表する国は「中華民国」で、安全保障理事会の常任理事5ヶ国にも入っていました。当時、まだ中華人民共和国はできてませんでしたので、あたりまえです。中華民国政府が共産党に敗れて台湾に逃れ、中国本土に中華人民共和国が成立しても、国連の議席は中華民国が持ったままでした。

ところが、1971年中華人民共和国での治安維持が進み、国としての体制も整ってきたということで、ついに国連は「中華人民共和国を中国を代表する国家」として承認することになりました。これを不服とした中華民国は、国連を脱退します。日本やアメリカも含む世界の各国は、中華人民共和国（中国）と国交を結び、中華民国（台湾）を国としては認めなくなりました。それ以降、台湾は国際社会では「中国の一地方」として位置付けられることになりました。台湾と中国との関係の問題も中国の内政問題という位置付け、現在でも台湾は多くの国から「国家」として認められていません。そのため、国連やWHOのような国際機関には参加できないのです。また、オリンピックのような国際的なスポーツ大会では「チャイニーズタイペイ（Chinese Taipei）」という呼称でしか参加することができません。中国とは別枠ですが、台湾と名乗ることが認められていないのです。





民主化へと進む

1975年長らく独裁政権を築いていた蒋介石が亡くなります。当時の副総統が残りの任期を務めたのち、次の総統には蒋介石の息子の蔣経国（しょうけいこく）が就任します。（総統とは台湾で国のトップを表す名称です。）

この蔣経国が台湾の民主化を進めたのです。野党の設立を認めたり、戒厳令を解除したり、報道の自由を認めたり、それまでの禁止事項を次々に解禁していきました。その後1988年、蔣経国が亡くなり、副総統だった李登輝が総統に就任します。李登輝は初の台湾出身の総統でした。李登輝は憲法に基づく政治を行い、民主化をさらに進めます。また、共産党との内戦状態に終結宣言をしました。つまり、共産党が大陸を支配するのを認め、大陸と台湾という「2つの中国」の並立を認めたことになりました。

1996年の総統選挙では直接選挙を導入します。それまでは、国民から選ばれた議員が総統を選出するという間接選挙だったのに対し、国民の投票によって直接総統が選ばれるようになったのです。これは台湾が完全に民主化されたことを示すものでした。この直接選挙に対して中国は強く反発しました。なぜなら、中華民国で「国民」の選挙でトップが選ばれる仕組みになると、中華民国は中華人民共和国とは別の「もう1つ国家」となり、「（台湾も含めて）中国は1つ」ということにならなくなってしまふからです。そこで中国はミサイルを撃って台湾を脅しましたが、結局、李登輝が再び総統に選ばれました。李登輝が所属していた国民党の立場は「1つの中国」を目指すというものです。

（もちろん、その1つの中国とは中華人民共和国ではなく、中華民国として本土と台湾が1つになるということです）しかし、李登輝は直接選挙の後、次第に独立への志向を強めていきました。

2000年代の台湾

2000年の選挙では、李登輝は立候補せず、代わって陳水扁（ちんすいへん）が次の総統になりました。陳水扁の所属はこれまでと違って国民党ではなく、野党の民進党でした。民進党は台湾独立を掲げる政党です。つまり中華人民共和国とは全く別の“国”として独立することを目指す政党です。陳水扁は選挙時こそは台湾独立の主張をしないで臨みましたが、次第に台湾独立の動きを強めていきました。陳水扁が2期8年を務めたのち、2008年の総統選挙では、国民党の馬英九（ばえいきゅう）が選ばれます。陳水扁の政権時とはうってかわり、馬英九は中国との関係改善に取り組みました。「親中」路線を取った理由のうち最も大きい理由は台湾の経済力を維持するためです。台湾はアジア四小龍（台湾、韓国、香港、シンガポール）の1つに数えられるなど、1960年代～1990年代に急速な工業化と経済発展を遂げていました。中国に負けない経済力があつたのです。しかし、1990年代から中国が経済面でも軍事面でも急成長を遂げます。中国の力がとても強くなり、経済面で圧倒されるようになったのです。そこで、馬英九政権は台湾の経済力を保つために、中国と様々な協定を結ぶなど中国との関係を深めていくような政策をとりました。

「親中」路線をとった国民党でしたが、国の経済指標の数字は上がっても個々人の給料がなかなか上がりず経済成長が国民に実感されなかったり、中国との距離が近づいたことでかえって“台湾人”としてのアイデンティティが高まったりと様々な逆風が吹き、2016年の総統選挙では、民進党の蔡英文（さいえいぶん）が選ばれました。初の女性総統の誕生です。蔡英文氏は2020年1月の総統選挙でも当選しました。民進党は台湾独立を掲げる政党ですので、2020年の総統選挙の際、北京で蔡英文氏が当選したことを伝えるテレビのニュースが遮断されたという報道もありました。中国と台湾の関係の問題は現在も続いています。「親中」路線をとる国民党と「独立」を目指す民進党のどちらが政権を担うかに中国は神経を尖らせています。また最近では、日本の政治家が声高に台湾有事を煽り、平和を妨げるような行動を行っていることに心痛めずにはられません。

台湾はこのように17世紀以降、常に他者から支配されるという歴史の中にあります。その中に日本もいたことを決して忘れてはいけません。日本の近代化の問題点は、明治が始まった時からのアジア蔑視にあります。当時の為政者たちは「日本をどのような国にするのか」と考えたときに、欧米国民統合の中心に「キリスト教」があることに倣い、「神道と天皇」を軸に据えて、大日本帝国を創り上げようとしてきました。「脱亜入欧」という考えが主流となり「アジアと縁を切り、欧米と交わることを主眼」としたのです。そのような方針が「台湾、朝鮮半島」の植民地化を進めていきました。「アジアの解放」と言いながら、「アジアへの侵略」を行ったのです。そして、過酷な植民地支配を強いたという意味では、YMCAやキリスト教会もそこに加担したと言えます。私たちの現在は、そこから繋がって来ていることを忘れてはいけません。そのことを前提に、わたしたちが平和を創り上げるための方法を考えていく必要があります。そのヒントとなるお話をご紹介します。

韓国をめぐる希望の物語

こんな実話が残っています。これは台湾ではなく、韓国を巡るお話です。9月1日は、関東大震災が起きた日、今年で数えて100年目となりました。その関東大震災では、地震により10万人あまりの命が奪われました。それに加えて、いわれなき暴力で亡くなった方も大勢いることをご存知でしょうか？当時、内務省が各地の警察署に下達した内容の中で「混乱に乗じた朝鮮人による凶悪犯罪、暴動などを画策しているので注意すること」とありました。これが行政機関や新聞、民衆を通して広まり、韓国の方々や、そうと間違われた中国人、日本人（聾啞者など）が多数殺傷される事件が発生したのです。今年制作され、9月1日に公開された映画「福田村事件」はその恐ろしさを伝えています。これらの事件を中川五郎さんが歌にしています。彼は3部作を創っており、そのうちのひとつが「真新しい名刺」という歌です。ミュージシャン沢知恵さんの素敵な歌《こころ》の訳詩者である彼女の祖父金素雲さんの随筆を曲にしたものです。

父を亡くした金一家は急速に没落していきます。彼は、1920年小学校卒業直前に叔母を頼って日本に来航します。関東大震災は、その3年後に起っています。苦学と独学の期間中、日本人のいわれなき優越感に、彼の民族意識は、ますます掻きたてられました。しかし、一方では「よき日本人」とも出会ったのです。それは、植民地では決して出会わなかった種類の人達であったそうです。その一人との出会いを感動的に綴っています。それは、彼が大阪で電車の車掌と喧嘩をした時のこと、車掌が朝鮮服の彼をぞんざいに扱ったことへ抗議したことが原因でした。

ここから・・・・・・・・

終点に屯していた運転手や車掌に取りまかれたまま、半ば曳き立てられる格好で私は乗務員たちの詰所へ連れ込まれた。ほぼ二、三十人、殺気立った連中が「やっちまえ、やっちまえ、生意気な野郎だ！」と喚きながら、ぐるりと私の周りを取り囲んだ。電車の中ではイキのいい峻珂を切った私も、こうなると多勢に無勢、あわれな捕虜である。いずれはタダですまない観念のホゾをきめたその時、雷のような大声が私のすぐ後ろでした「待て、馬鹿者ども！」振り返ると四十がらみの、背の低い中年の紳士が、満面<朱を注いだ>形容そのままの表情で車掌たちを睨み据えている。「この恥知らずども！その人をどうしようというのだ。指一本触ってみろ、この儂が相手になってやる」

地獄で仏とはこのこと、それよりも私が感動に胸を衝かれたのは、その人の、怒りに燃えた眼に、うっすらと涙が浮かんでいるのを見た瞬間である。歯切れのよい言葉の調子や顔つきは、まざれもない日本人で、多分私と同じ電車に乗合わせていた一人に違いない。その人は幾分声を和らげながら、呆っ気にとられて突っ立っている制服の連中を見回した。「事の起りをわしはこの目で見ている。ゴミや虫ケラじゃあるまいし、金を払って乗ってる客を二本の指先でつまんだら、誰だっ腹を立てるのは当たり前じゃないか。悪かったら悪かったとなぜ素直に謝れんのだ。きみたちは一体、どれほど立派な人間のつもりだ。海山越えて遠い他国へ来た人たちを、いたわり助けは出来ないまでも、多勢をたのんで力ずくでカタをつけようという、それじゃまるで追剥ぎか山賊じゃないか。そんな了見で、そんな根性で、きみたちは日本人でございと威張っているのか。」殺気にみなぎっていた詰所が、しんとして声一つ立てる者もない。いままで歯ぎしりしていた私も、有難いのを通り越して、何か相済まない気持、謝りたい気持ちで一杯である。その人は大通りの電車道まで私を連れて出ると、手をとりながらしみじみと言った。

「どうか許してやってくれたまえ、きょうのことは私が代ってお詫びをする。これから先、またどんなイヤな思いをするかも知れんが、それが日本人の全部じゃないんだからね。腹の立つときはこの私を思い出してくれたまえー」子供をなだめるようにそいいながら、その人は私の手に一枚の名刺を握らせて立ち去った。「日曜世界 社長 西阪保治」。

それから三十年、しかし、その時の一枚の名刺は少しも汚れずに、いまま私の記憶の中に、真新しいままで保存されている。

ここまで・・・・・・・・・・

これは一例に過ぎません。実際、彼はその後も多くの「よき日本人」と出会ったのです。不倶戴天の敵、憎むべき日本人の中に、「よき日本人」を発見したことが彼を葛藤させます。「日本に向って牙を研ぎながらも、こんな人に考えがおよぶ時、私の闘志は揺らいでしまう」と。そのジレンマの中で、彼は「救国の義剣をふりかざす」替わりに「民族の踏みにじられた誇りのために、気永く、根気強く戦う途」を選択するのであった。それが、朝鮮文化を紹介する「武器なき戦い」という、民族の古い詩心を翻訳・伝達することでした。「歪められぬ素朴な郷土の詩心と民族のたどった心の歴史」である朝鮮口伝民謡の採集・翻訳に着手したのであった。作品を書き込んだノートを携え、北原白秋の門を叩いたのは、19才の時でした。白秋は「こんな素晴らしい詩心が朝鮮にあったのか」と感嘆し、「金素雲を紹介する夕べ」を主催し、彼を文壇に紹介します。一面識もない白秋との劇的な邂逅は、その後の彼の人生を大きく変えることとなるのです。1929年、『朝鮮民謡集』（泰文館）が出版されましたが、その内容は、北原白秋序文、岸田劉生木版装画、山田耕作採譜でした。いずれも当代の一流人士であり、白秋の知遇がいかに厚かったかが一目瞭然です。その後、1933年には口伝民謡二千音を集大成した『諺文 朝鮮口伝民謡集』を土田杏村の力添えで、出版しています。「カタカナ一字も入らない」ハングル文字で七百頁の大刷で、今なお、韓国の民族学・方言学研究の第一級資料であるそうです。また、同年、岩波茂雄の知遇で、『朝鮮童謡選』、『朝鮮民謡速』を岩波文庫から出版しています。こうして、詩人金素雲の名は文壇に知れ渡っていくのです。

沢知恵さんはこの曲に寄せて、こんな風なコメントを残しています。祖父を助けた牧師の西阪保治さんがいなくなったら、私は生まれていなかったかもしれません。その西阪さんの息子さんと、偶然おなじ教会に通うことになり、西阪さんが社長をつとめた新教出版社から本を出し、私はいま、息子さんのお連れ合いと文通しています。不思議な不思議なめぐりあわせです。つい最近、歴史好きの息子にたずねられました。「ママ、歴史はなんのために勉強するの?」「知るために。心で受け留め、いまを生きるために。未来につなげるために。」と書いておられます。

このキャンプは、「遠方からの祈り」に出会う旅でした。「次こそは自分たちがこの恩を返します」と清々しく語った高校生の姿が、私には大変眩しく映りました。歴史を学ぶことは過去を学ぶだけのことではないのです。

歴史を学ぶことで、現在の問題を考えることができるようになるのです。



参加者のみなさんのことば



高校2年生の夏休み、台湾へ行きました。YMCAのキャンプは2回目です。岡山空港に集合したときには前回の台湾キャンプのときのメンバーもいて懐かしさでいっぱいになりました。前回私は小学6年生、今回はもっとリーダーシップが取れるよう気合いを入れました。

キャンプ中はたくさんのメンバーといろいろな話をしました。貴重な体験もたくさんさせてもらいました。

その中で印象に残っているのはあるメンバーとの会話です。彼はキリスト教について多くのことを教えてくれました。私が最も覚えているのは、キリスト教は感謝の精神であるということです。

突然ですが、「ありがとう」の対義語について考えたことはありますか？答えは「当たり前」です。

「ありがとう」という言葉は「有り難し」からきています。つまり、有ることは当たり前ではないのです。

このことを知って、自分の周りに起きていること全てが当たり前になることではないような気がしてきました。

再びこの台湾キャンプに来れたこと。新しいメンバーといろいろな話をして貴重な時間を過ごせたこと。そして台風が近付いているとの前情報にも関わらずそれほど影響を受けずいろいろなプランをこなせたこと。全てが「有り難し」であり感謝なのです。

普段の生活の中にも「有難い」ことがたくさんあるような気がします。毎日学校に行けること。勉強できること。部活のメンバーと切磋琢磨できること。帰ったら晩ご飯があること。

これからも人生の中でたくさんのことに感謝しながら一つ一つの経験を大切にしていきたいと思いました。

片山皓太郎



今回の台湾キャンプでは幅広い年齢層で心配もありましたが、早くからさまざまな準備を進めて円滑に進行していただいた関係者の方々、ボランティア活動に参加して沢山の人の支えとなったボランティアの方々、沢山の支えがあったからこそ思い出に残る台湾キャンプになったと思います。

僕たちが楽しいキャンプをしている裏側では沢山の努力があると思うと日々当たり前を感じることも当たり前でないと思うので感謝の気持ちを持って生活していきたいです。

時には急ぎすぎて本当に大切なことから目を背けることもあると思いますがそんな時はこの台湾キャンプを通して学んだ、当たり前なんかはないという言葉を出して強く生きていけるように頑張ります。

また今回台湾キャンプに選ばれて参加したからにはいろいろなボランティア活動に率先して参加出来るようにしていきたいです。四泊五日色々な思い出ができ、色々な方にお会いでき、本当に幸せで貴重な体験となりました。YMCA関係者の皆さん今回は素敵な台湾キャンプを経験させて下さりありがとうございました。

水川慎仁

台湾の子どもたちと話すのが英語でも伝わらなかつたり自分たちが、相手の言っていることがわからなかつたりしてコミュニケーションをとることがとても難しかったです。でもジェスチャーで伝えようとして伝わっていた人もいたのですごいと思いました。

日本語を喋ろうと頑張っていた子もいて自分も、もっと思い出せるようにしていたらよかったと、思いました。

バーベキューの肉と一緒に食べるのはパンだったり、ご飯の味付けが違ったり言語もだけれどいろいろな文化の違いがあって驚きました。お金の違いに、なかなか慣れなくて大変でした。他にも、みんなと一緒に泊まったり、普段はなかなか漕がない距離をサイクリングをしたり、バーベキューで協力しながら作ったし、海でたくさん泳いだり、砂の彫刻を見たり夜市に行き、お土産を買ったりして日本では、なかなかしない、できないこともあったからとっても楽しかったです。

新しい友達もできて嬉しかったです。

ご飯は、口に合わないものもあったけれど、カレーやクロワッサン、肉まんがとても美味しかったし晩御飯の後さらにもう1品くらいを大変なのに作ってくれたのが、とても嬉しかったです。

またしっかり台湾の言語を勉強してからもう一度行ってみたいと思いました。



僕は台湾の人たちの言葉はよくわからなかつたけれど、仲良くできたのでよかったです。それに日本の人たちとも仲良くなることができたのでよかったです。あと日本と台湾の文化の違いなども知ることができてうれしかったです。

大城功己

上田理駆



今回は、台湾キャンプへ招待してくださってありがとうございます。慣れない文化に戸惑い、はじめは不安でしたが、無事にできたのは、付き添ってくれたりしたリーダーの方のお陰です。

台湾の友達とは、言葉はわからなかつたけれど、仲良くできてよかったです。

これからは、各国、各地域などの事を学んでより早く日本とは違う文化に慣れていきたいです。台湾での経験で、そう思えるようになりました。よい経験をいただきありがとうございました。

大槇俊輝



私は2回目の台湾キャンプでしたが、前回の時とはまた違った貴重な体験をすることができてとても良い経験になりました。日本と台湾の文化の違いに戸惑いを感じたこともあったけれど、それを実際に味わうことができたのでよかったです。また台湾の友達と英語で会話することができたので、とてもうれしかったです。しかし、自分の気持ちを英語で表現する事はとても難しかったです。勉強頑張ろうと思いました。今回の台湾キャンプで得た経験を生かして、自分の人生をより鮮やかなものに出来るようにしたいです。

上田結萌



4泊5日の台湾の旅、ありがとうございました。一緒に過ごした日本メンバーのみんなも、台湾メンバーのみんなと過ごせた時間は宝物です。

最初は、初めての海外でとてもきんちょうしていましたが、台湾のYMCAの人たちがとても優しくかったし、リーダーも周りの友達もそれを和らげてくれました。台湾の子どもと会って言語の壁なんて感じず一緒に話すことができました。でも通じず大変だったこともあるのでこれから英語をたくさん勉強して、また台湾に行きたいと思いました。寄付してくれた人たち、この旅を計画してくれた人たち、連れていってくださった人たちに本当に感謝しています。

杉永琴菜



私は七月三十一日から八月四日の五日間の間、YMCAの台湾キャンプに参加しました。私はYMCAのキャンプで台湾に行くのは二度目で、今回は一回目の五泊六日より、一日短いものの、長いことは変わらなかったです。ですが、いざ最終日になるとあつという間だったと思いました。

今回のキャンプには一回目のキャンプと一緒にいった人のほかにも、初めて会う人も結構いました。その一回目のキャンプにはいなかった人の中には私と同じ中学校の人もいました。台湾に行く前に顔合わせなどをし、みんなの大体のことが分かった後、台湾行きの飛行機に乗りました。台風が来ていたせいか、時間が大幅にずれたのですが、無事に台湾につくことができました。そのあとはYMCAのホテルに行きました。一日目はこんな感じでした。二日目は台湾のメンバーと合流し、海へ行きました。本当は確か三日目だったと思いますが、天気都合上、二日目に行きました。泳ぐ範囲は限られましたが、とても楽しかったです。三日目には、台湾のメンバーと一緒にサイクリングに行きました。上り坂や下り坂があり、とても大変でしたが、無事に漕ぎきることができました。四日目には、台湾のメンバーとのお別れ会がありました。写真のスライドショーを見たり、ちょこっとしたゲームなどして、最後に一緒に写真を撮りました。台湾メンバーとのお別れはさみしかったです。ぜひ日本にも一度来てほしいを思いました。五日目は主に移動でした。朝ご飯を食べたらすぐ歩き、電車、飛行機でした。そして無事、日本に帰ってくることができました。他にも、砂の彫刻を見たり、屋台でチャーハンを食べたりなど、いろいろな思い出を台湾で作ることができました。

今回のキャンプで、台湾と日本の文化や暮らしの違いについても詳しく知ることができました。今回の台湾キャンプの思い出を、家族や友達に話したいと思います。

奥田名美音



私は台湾に4年前にも行きましたが、感じたことについてです。

まず私が台湾に行って困ったことについてです。困ったことは、台湾の料理です。一回行っているから大丈夫だろうと思ったけど、日本の味に完全に慣れてるので台湾の料理があまり口に合いませんでした。台湾の料理は味が濃くて、独特でした。でも、食べていくうちに慣れてきて、美味しく感じるようになってきました。完食できた時はとても嬉しかったです。

台湾に行って嬉しかったことは、台湾の大工さんに会えたことです。理由は、5年ぶりに改めて私たちの家を直してくれたお礼ができたからです。

台湾に行って楽しかったことは、初めて会った人、台湾の人たちと交流ができたことです。言語が違って、感じるものがあるので、仲良くなれ、お話をしても楽しかったです。私が台湾で色々な経験ができたのはたくさんの方を助けてくれた人たちがいるからだと思います。台湾で得た経験、友達を今後にも大切にしたいなと思います。ありがとうございました。

豊田志歩

台湾キャンプをして嬉しかったことや楽しかった事は四つあります。

一つ目は前に行ったときにいたメンバーが少なかったけどその人たちが覚えていてくれた事です。

二つ目は、平島地区などが浸水したときに大工さんたちと再会できて嬉しかったです。

三つ目は、台湾の人と仲良くなってゲームをしたら楽しかったです。

四つ目は、海、アート、サイクリング、トンネルをいって日本と違う事などあったけど楽しかったし、嬉しかったことがありました。

こんな事ができたのは、いろいろな人たちが支援して下さったおかげです。台湾に行けて感謝をしたいと思います。ありがとうございます。

豊田 慧



台湾の人たちと言葉が通じなかったけど、気持ちを込めて話したら通じたから嬉しかったです。僕は台湾2回目だったので、困ったことなどは特にありませんでした。

僕が台湾で色々な経験ができたのは、支援してくれた方々のおかげなのでこれからも台湾で得たことをこれからの生活に活かしていきたいと思いました。ありがとうございました。

豊田航河



「新しい一面を知って帰って来よう」と参加した二度目の台湾キャンプは私にとって夏休み最高の思い出となりました。

空港で懐かしい友達と出会い、今回はあまり緊張していないと始めは感じていましたが台湾の地に降りると私は徐々に胸が高鳴っていきました。数年前の台湾キャンプの思い出がフラッシュバックしてきて、一日目の夜から楽しみでしょうがありませんでした。その日の夜はお弁当だったのですが、何年ぶりの台湾のご飯は私の体には合わなかったのを覚えています。しかしみんなで歌を歌ったり嬉しかったことを話したりして素敵な夜を過ごすことができました。

二日目の大イベントはやはり台湾メンバーとの出会いだったと思います。目の前で繰り広げられる意味が通じないやり取りに入ることもできず戸惑いましたが、ゲームを通して仲良くなることができました。グーサインや英単語だけでも意思疎通ができ、ゲームをともに楽しむことができたということに驚きました。話をする中で、台湾の子も私と同じように、アニメやVtuberが好きということに気づいたときは嬉しくお互いに会話がはずみました。住んでいる所関係なく、好きなものを共有できることに幸せを感じました。

三日目のサイクリングでは私は今までで経験したことのない少し危険な体験をしました。普段めったに運動をしないので坂道を登ったりするのは少しハードでしたが、海の涼しい風を感じながら気持ちよくサイクリングできました。休憩時には海の向こうに日本らしき島を発見してリーダーやメンバーと盛り上がり、写真を取りました。問題は帰りのサイクリングなのですが、私は下り坂で回転しずっけるといって今まで初めての体験をしました。きれいにこけていったので全く痛くありませんでしたが、台湾のYMCAの方が日本語で「大丈夫??」と手当てをしてくださり、ありがたく思いました。そして私は人の優しさというものを感しました。

午後のバーベキューでは新たな壁が立ちはだかっていました。それは肉の焼け具合についてでした。日本と台湾では体内環境がやはり違うので、「肉が生だからもう少し焼きたい」という意思を台湾のメンバーに伝えるのにとっても苦労しました。肉を切つて、「raw! more fire!!」と私は完璧とは言えない英語を台湾の子に伝え続けました。すると、相手の子も理解しようと必死に耳を傾けて話を聞いてくれました。一緒に肉を細かく切り、何度も焼いてくれたことは忘れられません。そして、食べた肉バーガーは想像以上の美味しさでした!このBBQでさらに台湾のメンバーと仲が深まったことと思います。

四日目は台風の影響で九份には行けなかったものの、夜市でチャーハンにスイカジュースなど台湾ならではのものを食べ尽くしました。一日目は合わなかったお弁当もだんだんと食べられるようになってきていたので、夜市のご飯ももちろん完食でした!

このようにまだまだ話したいことは多くあります。台湾の子からもらった烏龍茶が激甘だったり試食を大量にさせてくれる店員さんがいたり…貴重な体験をたくさんできたと思います。

私がこの台湾キャンプで何よりも印象に残っているのは、台湾の人々が私達日本人を温かく受け入れてくださったことです。お茶のお店に行くと、「日本人の方ですか?」と声をかけてくださり、おすすめのお茶を翻訳を使って伝えてくださったりしました。夜市でも「日本人ですか?」と話しかけてくださり、「これをつけて食べると美味しいよ」とジェスチャーで教えてくださったりしました。これらの出来事が、台湾のどこの場所に行ってもありました。ちょっとしたことなのですが、私にとってはとても嬉しかったことで、日本と台湾が支え合い、繋がっていることがわかる大切な経験でした。

台湾キャンプの中で「台湾は国ですか?」と問われることがありました。私は、日本自体は台湾を国と認めていないと聞いたことがあったので何が正解なのかわかりませんでした。しかし、このキャンプで台湾の皆さんの優しさに触れて改めて、「国であるのに関わらず私は台湾が好きだし大人になっても台湾に訪れて現地の人と交流をしたい」と思いました。次は台湾メンバーに日本に来てもらって日本の食事や風景を存分に楽しんでもらいたいと感じています。この5日間は長いようであっという間でした。そしてその中にたくさんの思い出がみっちり詰まっています。

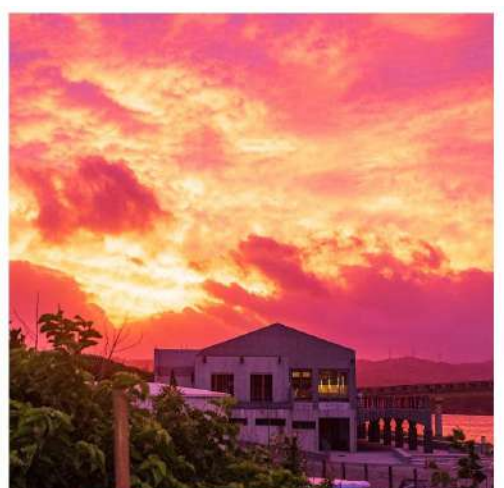
「新しい一面を知って帰って来よう」

この私の目標は達成されたと思います。しかし、まだまだ知らない一面もあるでしょう。

自分の目で触れ、感じることの素晴らしさを忘れないよう、日本だけにとどまらず、これからもっともっと世界に飛び出していこうと思います!この度はこのような充実した台湾キャンプを計画してくださりありがとうございました。



倉重桃花





山陽GGクラブ第150回記念月例会

◇8月5日 弥生公園(赤磐市) 山陽GGクラブを中心とした当クラブは平成14年に結成、その月例会が150回を迎えました。会員の大半が70～80代と高齢になりましたが、週4日の練習で体を鍛え大会当日は広場で集まりました。(花木政史)

京都産業大学同窓会 岡山県支部総会・懇親会 ◇8月6日 ヒュアリアまきび(岡山市) 70代後半から90代の計56人が出席。生物学・生命科学部の高峯弘樹教授を迎え、「猛威を振る鳥インフルエンザ」と題する講演を聴きました。懇親会は、同僚の子供たちと交え、アットホームな雰囲気を楽しみました。(長瀬正典)



寺田光寂会長祝賀会

◇8月1日 紅葉亭(岡山市) 本年度、中国地方保護協会連合会会頭に就任された寺田光寂の祝賀会を、岡崎副会長を前に開催しました。



年金協会吉備南分会 アーバンホール杯ボウリング大会

◇8月7日 サンフラワーホール(倉敷市) コロナ・熱中症対策を施した熱戦もゲームでした。参加者の気分は青壮年ですが実年齢は? スコアアップは練習あるのみ。足腰の速さな今頑張ろうとの声も。今回はストライクのハイタッチのできる環境になればと思います。(大瀬積)



台湾キャンペーン

元「御北中学校同窓会」役員会

◇8月2日 長田地区(岡山県吉備中央町) 町内居住の同窓生6人が久しぶりに集まりました。すばらしい庭園を見て感激し、焼き肉とアルコールで舌鼓。お互いの苦労話も弾み、食後はおいしい果物もいただき、とても有意義な役員会でした。主催者に感謝!! (笹岡英作)

◇7月31日(8月4日) YMCAキャンプ(岡山県) 四日本豪雨被害被災家庭の子ども12人と台湾の子ども8人を台日合同キャンプに招待し、台北のキャンプ場で共に遊び、歌い、食しながら交流を行いました。主催は日本基督教団東中国教会、運営はYMCAが担当しました。(太田直宏)

◇7月30日 紅葉一葉(岡山市) コロナ禍で3年遅れの選考同窓会を開催しました。同窓会を聞き取り、30人が出席。近況報告や任を託し、激励、2年後の再会を約束しました。(岡野敏久) 藤田中学校選考同窓会 昭和50年卒業

◇8月1日 紅葉亭(岡山市) 本年度、中国地方保護協会連合会会頭に就任された寺田光寂の祝賀会を、岡崎副会長を前に開催しました。久米地区保護協会は岡山県内で最も小さな会ですが、安全で安心な地域づくりに頑張っています。(山本登志夫)



和気町老人会(第2むつみ会)懇親会

◇7月31日 岡山甲種本店(岡山市) コロナ禍のため4年ぶりに懇親会を開催しました。会員19人が送迎バスで岡山山に向かい、軽食会を楽しみ、会員が持ち寄ったプレゼントを交換。おしゃべりにも花が咲き、充実した一日でした。(中瀬清子)



金川高校16期同期会

◇8月6日 藤浅(岡山市) 今年も高橋高先生90をお祝いし、遠くは東京や海外へ出かけられた人も、懐かしく「我が学校は懐かしき輝け金川水久保」を共にこの誇りと校歌を合唱。来年11月3日の再会を楽しみにと、別れを惜しんだ。(安清治雄)



第5回玉島平和美術展

◇8月6日 玉島市民交流センター(倉敷市) 戦争のない平和な世界をつくらう、の呼びかけでスタートした美術展を8月7日(8日)開催。出品者は思作、作品、知人友人など来場者は思い思いに鑑賞と交流を深め、元気な姿を確立し合う貴重な場となる。平和を願う心は、(中野雅徳)

PROFOODS SPECIALTY SHOP FOR HEALTHY COOKING. 0120-412622 www.profoods.co.jp

投稿は郵便番号・住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記の上、〒700-8634 山陽新聞社読者局(メールdokusha@sanyonews.jp) フォクス086-803-8100へ。二重投稿は不可。他からの引用等は明記。採否の問い合わせはご連絡ください。投稿作品や写真は返却できません。【ちまた】原稿は400字程度。郵附する場合があります。絵画、イラスト、絵手紙は、はがきで、【ヤング】原稿は400字程度。イラストは、はがきでモノクロ。【時事せんりゅう】1人3句以内。【集い】3か月以内に開かれた同窓会やサークルの集合写真に、原稿100字以内。家族会など私的なものは不可。【私の宝】大切にしている物を写真に撮り、50字程度の説明文を付けて。人物は除く。写真の裏に名前を明記。

投稿の決まり

きで、【ヤング】原稿は400字程度。イラストは、はがきでモノクロ。【時事せんりゅう】1人3句以内。【集い】3か月以内に開かれた同窓会やサークルの集合写真に、原稿100字以内。家族会など私的なものは不可。【私の宝】大切にしている物を写真に撮り、50字程度の説明文を付けて。人物は除く。写真の裏に名前を明記。



台湾キャンペーン

◇7月31日(8月4日) YMCAキャンプ(岡山県) 西日本豪雨災害被災家庭の子ども12人と台湾の子ども8人を台日合同キャンプに招待し、台北のキャンプ場で共に遊び、歌い、食しながら交流を行いました。主催は日本基督教団東中国教会、運営はYMCAが担当しました。(太田直宏)

福隆便賞 福隆第一家古早味 創始人吳王月枝女士 於民國46年創立 福隆街5號 (火車站前) 歡迎團體訂購 TEL:(02)24991627

豪雨被災支援 台湾で再会

太田 直宏 62(岡山市中区 公益財団法人代表)

「台湾に来てくれた子どもたちと、台北 学びながら交流しました。ありがとうございます。大きな Y M C A で再会しました。言葉や文化の違いは大きく最初はおっかきで、本当にうれしす。

いよ」。大工の技能を 7月31日〜8月4 徐々に仲良くなって距持つ台湾長老キリス 日、西日本豪雨被災家 離が縮まり、別れ際にト教会の牧師の方々 庭の小中高生12人と台 は、将来の再会を誓いた。

が、西日本豪雨当時に 湾の子ども8人を教会 合う関係ができました。修繕に取り組んだ家 が台湾での交流キャン た。

屋に、現在も住んでい プに招待してください 「私たちの同胞が苦る岡山市の平島地区 り、共に遊び、食し、 しんでいる。だから助

けに行きましょう」。日本で災害が起こるたびに、台湾の教会では、多くの方がそうおっしゃると教えていただきました。このキャン プ「遠方からの被災地への祈り」に出会い、

思いを確かめる機会となりました。「次は自分がこの恩を返します」とすがすがしく語った高校生の姿が、大変まぶしく映りました。

世界平和のために必要なのは、このような関係性だと確信しています。

YMCA役員からのことば



Hello. My name is Lin from Changhua YMCA. I am currently serving as the representative director. YMCA Setouchi and Changhua YMCA have built a very good relationship for 11 years. The East Asia Peace Circle, which was created in conjunction with South Korea's Jinju YMCA, has a wonderful structure that supports the development of young people through mutual exchange. When there was a flood in Okayama, we immediately sent young leaders to the disaster area and were able to work with them to support recovery efforts. I am very happy that this relationship has led to this camp. The Taiwanese children were also very happy to meet Japanese children. We hope to continue this relationship in the future.



Hello. My name is KD from Changhua YMCA. I am a board member of Changhua YMCA. Mr. Ota from YMCA Setouchi and I are very good friends and have a relationship like brothers. Our friendship has continued for a long time since we met 11 years ago. I am deeply grateful to God for giving me this encounter. We are very happy that children from Okayama came to Taiwan for the first time in three years. I was surprised to see that the children I met after a long time were growing up so well. Please come to Taiwan again. We hope to continue to cherish this wonderful relationship.



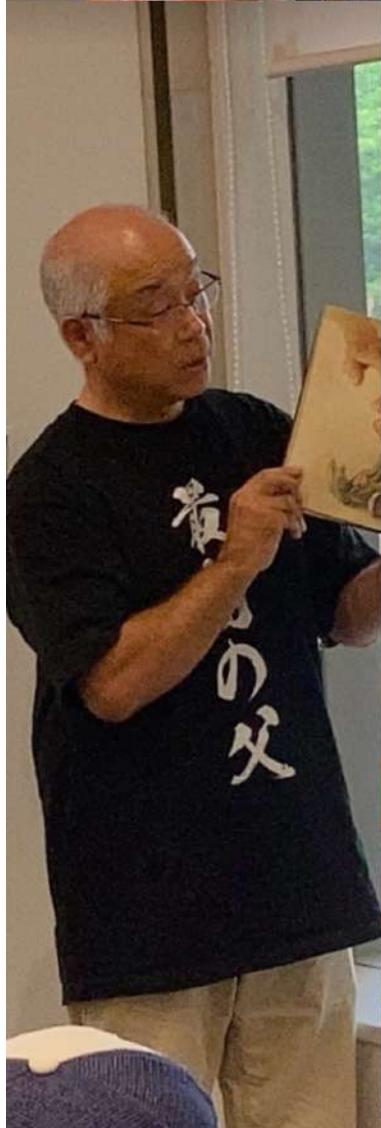
YMCAせとうち理事長の正野隆士です。

この度も日本基督教団ならびに台湾長老教会のご支援の元、西日本豪雨災害被災家庭のこどもたちのキャンプを実施させていただけましたこと、心より感謝申し上げます。思えばこの3年間はコロナの問題もあり、国境を超えた交流はオンラインのみとなっていました。今回は飛行機に搭乗し、実際に台湾の地に降り立ち、直接触れ合うことができたことが何よりの成果でした。大きく成長したこどもたちが、台湾から日本にボランティアとして来てくださった方々の想いを直接伺うこともでき、大げさですが、今後の彼らの大きな課題である「いかに生きていくか」の大きなヒントを得る機会となったような気がしています。「いつどこで、誰と誰が、どんな出逢いをするか。それが大切なんだなあ」という言葉が大好きです。今後ともこの良好な関係を継続していく努力を重ねます。



YMCAせとうち総主事の太田です。

「大切なことはみんなキャンプで学んだ」わたしの62年にわたる人生を要約すれば、そのように記することができます。少年期のキャンプでのリーダーとの豊かな人格的交流、青年期、会社を辞して参加したフィリピンワークキャンプでの神さまの働きとの繋がり。そしてYMCAライフを通して実践したさまざまなキャンプでのこどもたちの成長。人生のさまざまな場面にキャンプが存在し、そこには多くの気づきがありました。参加してくれているこどもたちはもちろんのこと、キャンプに欠くことができないのは「ユースリーダー」の存在です。今回は日本のみならず、台湾や香港の若者が参画し、こどもたちの良きメンターとして生活を共にしてくれました。「たかがキャンプ」を「されどキャンプ」に転換してくれるのは、このようなリーダーたちの存在にほかなりません。今回の参加者が、いつかリーダーとしてYMCAに帰って来てくれる、そんなことを夢見ています。



ご寄附のお願い

YMCAでは、このような活動を実施するために寄附を募集しています。詳細は、以下のQRコードを読みとってください。よろしくお願いいたします。





オンラインバージョン
キャンプレポート

